

2019年度 都立府中東高校 BOXING部

2019.11.24 駿台学園と合同練習

11月24日は新人戦の決勝2試合が行われましたが、駿台学園高校ボクシング部顧問の関口孝先生から、健診計量が終わってから、試合が行われるまでの間に一緒に練習しませんか、と依頼を受け実現した合同練習です。

駿台学園以外の学校は、出場人数の多い駿台学園とほとんど1回戦で対戦します。新人戦では駿台学園にこぞって敗退したわが校の選手について、関口先生は「どちらが勝者でもおかしくない試合もあり、よく練習している」また「強い気持ちを感じる」と言葉をくださいました。新人戦敗退後、関東選抜大会に出場する2名を除いては、打倒駿台学園、関東大会出場という目標に向けて練習あるのみです。

「切磋琢磨」。関口先生が口にされた言葉です。駿台学園に勝つために練習している本校選手が駿台学園の選手にとって侮れない相手となれば、駿台学園の選手にとってもマイナスになることはありません。東京の選手が全国で活躍できるように「切磋琢磨」です。

駿台学園に勝てば全国でも通用する。まず本校は駿台学園に一矢報いて関東へ。



合同練習ではまずマスボクシングを実施しました。これが一校の人数かというこの人数。写真を見てもわかると思います。部内でいろいろなタイプ、スタイルのボクサーと練習ができることが大人数の学校のメリットの一つ。それを肌で感じました。校内選考のように部内で実力を測り競い合わせることができます。新人戦のバンタム級の決勝は関東チャンピオン同士の1戦。実力伯仲の高レベルの1戦は都の決勝で行われるレベルの試合ではありません。全国ベスト4に匹敵すると思います。国際大会に出場経験がありキャリア十分の1年生高橋昂選手に2年生の渡邊海選手がポイント勝ち。部内でいい練習をしているのだと思います。その練習に本校の選手が混ざり、何を感じたのか。感じたものを今後の練習に活かしてもらいたいと思います。

マスボクシングの後は関口先生の指示でサンドバッグ打ち。定められた時間、全力でパンチを打ち込みました。これも大人数でいい刺激です。時折大声をあげながらサンドバッグに強打を打ち込む駿台学園の選手の姿は本校の部員の目に焼き付いたと思います。

サンドバッグ打ちの後はフリーの時間を設け、ミットを受けたりサンドバッグを打ち込んだり各自の時間となりました。今年度は何度か駿台学園に遠征に行かせてもらっていますが、遠征ではスパーとマスがメインとなります。このような合同練習の機会があれば、ぜひ一緒に練習してもらいたいと思います。



駿台学園の皆さん、ありがとうございました！